

## 令和4年度 登録さく井基幹技能者 合格者について

(一社)全国さく井協会

### 1. 合格者一覧

令和4年度 登録さく井基幹技能者講習修了試験の合格者は下記のとおりである。

| 受講番号      | 受講番号      | 受講番号      | 受講番号      |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 22-01-001 | 22-02-023 | 22-04-006 | 22-06-001 |
| 22-01-002 | 22-02-024 | 22-04-007 | 22-06-002 |
| 22-01-003 | 22-02-025 | 22-04-008 | 22-06-003 |
| 22-02-001 | 22-02-026 | 22-04-009 | 22-06-004 |
| 22-02-002 | 22-03-001 | 22-04-010 | 22-07-001 |
| 22-02-003 | 22-03-002 | 22-04-011 | 22-07-002 |
| 22-02-004 | 22-03-003 | 22-04-012 | 22-07-003 |
| 22-02-005 | 22-03-004 | 22-04-013 | 22-07-004 |
| 22-02-006 | 22-03-005 | 22-04-014 | 22-07-005 |
| 22-02-007 | 22-03-006 | 22-04-015 | 22-07-006 |
| 22-02-008 | 22-03-007 | 22-04-016 | 22-07-007 |
| 22-02-009 | 22-03-008 | 22-04-017 | 22-07-008 |
| 22-02-010 | 22-03-009 | 22-04-018 | 22-07-009 |
| 22-02-012 | 22-03-010 | 22-04-019 | 22-07-010 |
| 22-02-014 | 22-03-011 | 22-04-020 | 22-07-011 |
| 22-02-015 | 22-03-012 | 22-04-021 | 22-07-012 |
| 22-02-016 | 22-03-013 | 22-04-022 | 22-08-002 |
| 22-02-017 | 22-03-014 | 22-04-023 | 22-08-003 |
| 22-02-018 | 22-04-001 | 22-05-001 | 22-08-004 |
| 22-02-019 | 22-04-002 | 22-05-002 | 22-08-005 |
| 22-02-020 | 22-04-003 | 22-05-003 | 22-08-006 |
| 22-02-021 | 22-04-004 | 22-05-004 | 22-08-007 |
| 22-02-022 | 22-04-005 | 22-05-005 |           |

なお、合否の通知は各受講者に郵送にて通知します。

## 2. 合否判定基準

登録さく井基幹技能者講習修了試験において、正答率 60%以上の者を合格者とする。

## 3. 修了試験問題の正答

### I 共通科目に関する問題

|     |   |      |   |     |   |     |   |
|-----|---|------|---|-----|---|-----|---|
| 問 1 | 4 | 問 2  | 2 | 問 3 | 4 | 問 4 | 3 |
| 問 5 | 1 | 問 6  | 2 | 問 7 | 4 | 問 8 | 2 |
| 問 9 | 2 | 問 10 | 4 |     |   |     |   |

### II さく井科目に関する問題

|      |   |      |   |      |   |      |   |
|------|---|------|---|------|---|------|---|
| 問 1  | 1 | 問 2  | 1 | 問 3  | 1 | 問 4  | 2 |
| 問 5  | 4 | 問 6  | 4 | 問 7  | 3 | 問 8  | 2 |
| 問 9  | 4 | 問 10 | 1 | 問 11 | 2 | 問 12 | 2 |
| 問 13 | 3 | 問 14 | 2 | 問 15 | 2 |      |   |

## 4. 試験問題

令和 4 年度試験問題は次頁以降に示すとおりである。

## I 共通科目に関する問題

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

【問1】「建設業法における登録基幹技能者の位置づけ」について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 建設業の許可を受けた者が、建設工事を施工する場合は主任技術者を配置しなければならない。
2. 登録基幹技能者は、主任技術者の要件の1つとして認められている。
3. 主任技術者は工事現場における工事の技術上の管理をつかさどる者とされている。
4. 主任技術者は元請が工事の技術上の管理をつかさどる者として配置すればよい。

【問2】「品確法の改正のポイントと目的及び基本理念」について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 現在及び将来の公共工事の品質確保。
2. 公共工事の品質確保の担い手の短期的な確保・育成の促進。
3. 適切な点検・診断・維持・修繕等の維持管理の実施。
4. 災害対応を含む地域維持の担い手確保への配慮。

【問3】登録基幹技能者に求められる能力について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 施工技術及び施工管理に係る基本的知識と優れた技能を有している。
2. 部下を直接指揮監督して、指導、教育を計画的に行うことができる。
3. グループ全体のリーダー役として、意欲の向上とチームワークづくりができる。
4. 技術者、他職種との折衝調整は基本的に部下の自主性に任せる。

【問4】OJTは、職場の上司が部下育成のために、日常の作業を通して行う指導・教育のことであるが、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 上司の仕事そのものであるとの認識のもとにOJTを行う。
2. 部下の能力レベルに合わせた指導育成の目標を立てる。
3. OJTの実施により一般的に業績低下が生じるのはやむをえないとされる。
4. 組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大する機会を提供する。

【問 5】 施工計画のための事前調査について、次の記述のうち最も不適切なものはどれか。

1. 契約条件の設計図書などを十分に理解することにより、建設目的物の工事内容の全体像を把握することで事前調査は省略できる。
2. 事前調査には、契約条件と現場条件があり、検討を行うことにより施工計画や工事価格の見積等を適正にして工事を成功に導く。
3. 工事の失敗と成功の分岐点は、事前調査による問題点を十分検討し、工事にどう反映させるかで決まる。
4. 事前調査では、複数人で調査したり、回数を重ねたり、時期をずらしたりして調査することにより、個人的な視点の片寄りをなくし、正確に、詳細に、もれなく調査ができる。

【問 6】 ネットワーク式工程表について、次の記述のうち最も不適切なものはどれか。

1. ネットワーク式工程表には、作業を実線で表示する「アロー型」と作業を丸印で表示する「サークル型」がある。
2. ネットワーク式工程表の特徴として、作業手順、作業の相互関係の影響については不透明である。
3. ネットワーク式工程表を正しく運用することは、時間のムダ、ムラの防止や原価管理にとって重要である。
4. ネットワーク式工程表の破線の矢線をダミーといい、作業の相互関係だけを表し、無作業・無時間（日数）である。

【問 7】 現場の原価管理で重要とされる元請対応について、次の記述のうち最も不適切なものはどれか。

1. 毎日の作業日報で契約内と契約外工事の仕分けを行う。
2. 元契約外の追加・変更時工事を明確にする。
3. 契約外常用工事を明確にする。
4. 毎週あるいは毎月作業内容内訳を提出するより、工事完了直前に元請に提出する。

【問 8】 品質管理について、次の記述のうち最も不適切なものはどれか。

1. 発注者が要求する品質内容は設計図書及び仕様書にある。
2. 品質には「設計品質(出来栄えの品質)」と「施工品質(ねらいの品質)」がある。
3. 品質は工程でつくり込む、検査ではつukれない。
4. 施工品質は作業標準書の作成とその活用で決まる。

【問 9】労働安全衛生法で定められている、労働者・作業員が守らなければならない6つの義務について、次の記述のうち含まれないものはどれか。

1. 安全状態を保つ義務
2. 安全衛生教育の義務
3. 安全措置を講じる義務
4. 危険行動の禁止義務

【問 10】建設業法では、元請負人は下請負人が見積を行うために必要な一定の期間を設けなければならないと規定されている。次の記述のうち最も不適切なものはどれか。

1. 工事1件の予定工事価格が3000万円の工事については、見積期間を12日として見積させた。
2. 工事1件の予定工事価格が1000万円の工事については、見積期間を10日として見積させた。
3. 工事1件の予定工事価格が7000万円の工事については、見積期間を15日として見積させた。
4. 工事1件の予定工事価格が600万円の工事については、見積期間を5日として見積させた。

## Ⅱ さく井科目に関する問題

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

【問 1】 さく井工の掘さく概要について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. パーカッション式工法は、地層が未固結の細砂や粘土層の掘さくに適している。
2. ロータリー式工法の掘くずは、掘さく流体により地表に搬出される。
3. ダウンザホールハンマ式工法は、硬い岩層を掘さくするのに最も早く掘れる工法である。
4. 回転振動式工法は、回転切削と振動破碎機能で急速掘さく(大きな掘進率)が可能である。

【問 2】 施工計画の立案の手順について、次の記述のうち最も適切なものはどれか。

1. 事前調査 → 施工技術計画 → 仮設計画 → 調達・管理計画
2. 仮設計画 → 事前調査 → 施工技術計画 → 調達・管理計画
3. 事前調査 → 施工技術計画 → 調達・管理計画 → 仮設計画
4. 施工技術計画 → 事前調査 → 仮設計画 → 調達・管理計画

【問 3】 金属系ケーシング管の特徴について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 配管用炭素鋼鋼管のうち、内外面に亜鉛めっきを施したものは黒管と呼ばれている。
2. 圧力配管用炭素鋼鋼管は、温泉等の比較的大深度のケーシング材料として多く使用される。
3. 一般構造用炭素鋼鋼管は、管径 600A 以上のケーシングやコンダクタ材料として使用される。
4. 配管用ステンレス鋼鋼管は、主として SUS304 系が使用されている。

【問 4】 スクリーンに求められる機能について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 集水面積が大きいこと。
2. 取水時の損失水頭が大きいこと。
3. 圧潰・座屈・引張り等に耐える強度を有すること。
4. 井戸内への地層粒子流入を防止すること。

【問 5】 さく井工事における安全費について、次の記述のうち含まれないものはどれか。

1. 不稼働日など保安要員等の費用。
2. 安全委員会等に要する費用。
3. 防護柵、バリケード、照明など安全施設類に要する費用。
4. 周辺住民挨拶に要する費用。

【問 6】 さく井工事における法定福利費について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 工事見積書には法定福利費の全額を明記することが必要である。
2. 法定福利費とは、健康保険料(介護保険料含む)、厚生年金保険料(児童手当拠出金含む)、雇用保険料のうち、現場労働者の会社負担分を指す。
3. 見積額に計上した労務費を賃金とみなし、それに各保険料の保険料率を乗じて算出する方法が一般的である。
4. 法定福利費は消費税の対象にならない。

【問 7】 作業手順の具備すべき具体的条件として、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 作業の実状に即していること。
2. ムダ、ムラ、ムリがないこと。
3. 作業者の高度な熟練や、注意力を必要とすること。
4. 施工条件、運転条件、許容範囲を加味して決めること。

【問 8】 クレーンの玉掛に使用できないワイヤロープの条件として、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. ワイヤロープ 1 (ひと) よりの間において素線数の 10 パーセント以上の素線が切断しているもの。
2. 直径の減少が公称径の 10 パーセントをこえるもの。
3. キンクしたもの。
4. 著しい形崩れ、または腐食があるもの。

【問 9】 溶接作業の注意点として、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 正しいしゃ光保護具を使用し、アークを直視しない、身体を露出しない等の措置を講ずる。
2. 有害ガスによる災害を防ぐには、換気をよくすることが大切である。換気だけでは不十分な場合には、防じんマスク、エアラインマスク等の使用も考えなくてはならない。
3. 溶接中は引火性物質等を近くに置かないことが第一である。それらの物質の近くに導線を通すことも避けなくてはならない。
4. 放射線による障害を防ぐため、常に線量計を携行し、許容量以内かどうかを確認し、定期的に血液検査を行う等の注意が必要である。

【問 10】 さく井柱状図の作成について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 地層の境界判定はサンプルで行うことが最も正確であり、電気検層図による補正は必要ない。
2. シルトを構成する粘性土分は泥水に溶け込みやすく、粘土層との判別が困難なことがある。
3. 掘さく中に採取される掘りくずは、ビットで砕かれた泥岩や砂岩、または岩盤であることがあり、すべてを礫や砂と判定してしまうことは誤りである。
4. 砂であれば、丸く円摩されて色調の混在がみられるが、泥岩やシルト岩では、砕かれて角張ったサンプルが採取される。

【問 11】 ケーシング管挿入および砂利充填について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. ケーシング管の建て込み前にはできるだけ泥水を希釈し、厚く張り付いた泥壁は丁寧に洗浄除去してケーシングのスムーズな挿入を促す。
2. ケーシング管が入らない場合はケーシングパイプを引上げ、セントラライザを外した後に再度建て込みを行う。
3. 砂利充填の主たる目的は、防砂、スクリーン及びケーシングの固定、集水能力の増大を図ることである。
4. 砂利を充填する場合ベルトコンベアやスコップ等を使用しているが、一気に大量の砂利充填を行うと、孔壁の崩壊や棚かきの原因となるので、少量ずつ静かに行うべきである。

【問 12】 社会保険および労働保険について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 健康保険とは、労働者やその家族が、病気や怪我をしたときや出産をしたとき、亡くなったときなどに、必要な医療給付や手当金の支給をする制度である。
2. 労災保険とは、業務災害の場合に、国が会社に代わって給付を行う制度であり、通勤時の災害は含まれない。
3. 雇用保険とは、労働者が失業した場合に、生活の安定と就職の促進のための給付を行う制度である。
4. 厚生年金保険とは、労働者が高齢となって働けなくなったり、何らかの病気や怪我によって身体に障害が残ってしまったりした場合に保険給付を行う制度である。

【問 13】 建設業の働き方改革について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 中小の建設企業による積極的な ICT 活用を促すため、公共工事の積算基準等を改善する。
2. 公共工事における週休 2 日工事の実施団体・件数を大幅に拡大することが推進されている。
3. 時間外労働の上限は、36 協定を締結した場合でも、原則として月 60 時間、年 540 時間である。
4. 3 次元モデルにより設計情報等を蓄積・活用する BIM/CIM の積極活用が推進されている。

【問 14】 水循環基本法について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 2014 年 7 月に水循環に関わる施策を総合的かつ一体的に推進するために制定された。
2. 「地下水の適正な保全及び利用に関する施策」を行うことは都道府県知事の責務である。
3. 「地下水の適正な保全及び利用に関する施策」には「地下水データベースの構築等」が含まれる。
4. 事業者・国民の責務として、「地下水データベースの構築等」への協力が含まれる。

【問 15】 地中熱利用について、次の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 深さ 10m くらいのところの地温は、年平均気温にほぼ等しくなっている。  
四国九州の南部で 20℃、北海道で 10℃、東京や大阪では 17℃程度である。
2. オープンループ地中熱利用とは、地中から熱を取り出すために地中熱交換器内に流体を循環させ、汲み上げた熱をヒートポンプで必要な温度領域の熱に変換するシステムを指す。
3. 地中熱交換器でどの程度の採熱・放熱が可能かを調査する方法が、熱応答試験（TRT：サーマルレスポンステスト）である。
4. 熱応答試験時に深度毎に温度センサーを設置した場合は、地下水流動状況の把握にも有効である。